

令和5年度 新型転換炉原型炉ふげん総合防災訓練における課題対応について  
 (「課題と対策」)

1. 概要

令和5年10月17日に実施した訓練の結果を踏まえ、課題を抽出し、対策の検討を行った。検討結果の概要は以下のとおり。

No.	抽出した主な課題等	区分	対策	抽出元
1	訓練開始時の訓練用緊急地震速報や館内放送が、所内従業員及び外来者等へ確実に伝わっていない。	情報共有	・訓練用緊急地震速報や館内放送が、所内従業員及び外来者等へ確実に伝わるよう、音量、放送設備の健全性、音響の状況を確認し、音量を調節する。	・パンチリスト No4, 9, 15 ・プレイヤーコメント
2	敦賀対策本部からERCに対して正しい情報共有ができなかった。	情報共有	・ERC 対応者の役割の明確化	・パンチリスト No41
3	リエゾンについて、担当者の任務への理解が足りず、役割が十分に果たされていない。(機構対策本部/敦賀対策本部)	リエゾン	・リエゾン担当者間での役割の明確化	・パンチリスト No. 7, 49, 50, 54
-	その他	-	-	-

2. 検討の詳細

(1) 現地対策本部

・問題点①

訓練開始時の訓練用緊急地震速報を館内放送ではなく、管理区域も含めてふげん全域に周知する目的で、ページング設備のマイクを介して実施したため、音声小さく聞き取りづらかった。また、要員招集、所内従業員及び外来者等への安全確保に関する館内放送の音声、特に初動の段階で小さく聞きづらい場合があった。

【課題】

訓練用の緊急地震速報や館内放送が、所内従業員及び外来者等へ確実に伝わっていない。

【原因】

1. 訓練用の緊急地震速報を事前の音量確認を行わずにページング設備のマイクを介して実施したため、適切な音量で実施しなかった。
2. 館内放送が、所内従業員及び外来者等へ確実に伝わるよう、日頃から放送される音声の

状況を確認していなかった。

**【対策】**

1. 訓練用の緊急地震速報を放送する際は、実際に緊急地震速報が発信された場合と同様に、館内放送設備から発信することとし、音量を事前に確認しておく。
2. 放送設備の健全性、音響の状況を確認し、音量を調節する。

(2) 敦賀対策本部

・問題点①

敦賀対策本部のERC対応者(発話者)からERCに対する燃料体構造仕様の説明において、勘違いした発話が行われたが、敦賀対策本部の他のERC対応者は、速やかに修正する発話ができなかった。

**【課題】**

敦賀対策本部からERCに対して正しい情報共有ができなかった。

**【原因】**

敦賀対策本部の他のERC対応者等が、ERC対応者(発話者)の誤りに気付かなかった。

**【対策】**

ERC対応者の役割に「発話者の発話内容を確認する」があることを明確にし、ERC対応者に共有することで改善を図る。

(3) 機構対策本部/敦賀対策本部

・問題点①

敦賀対策本部ERC対応ブースからERCへ誤った説明を実施した際、リエゾンから積極的に訂正を実施できなかった。

**【課題】**

各リエゾンに求められる役割を十分に果たせていない。

**【原因】**

ERCとの円滑な情報共有を支援するという着意が不足していた。

**【対策】**

リエゾンの役割について担当者の認識を明確化するため、機構内でリエゾン対応について再整理し担当者に共有することで改善を図る。

3. その他

(現地対策本部)

No.	課題区分	課題	原因	対策	抽出元
1	情報共有	現地対策本部長以下、各対応班長等の発言において、「発話が長い(丁寧語で発言している)」、「発話が早口になった」、「発話内容の重要なポイントが不明確になった」等の改善事	各対応班長等に、発話内容の重要ポイントを把握し、端的に、分かり易く伝えるとの配慮が不足していた。	各対応班長等の発言に対し、「重要ポイントを復唱する」、「丁寧語の使用を改める」、「早口にならないよう注意する」こと等の注意事項を、発話時に見易い位置に表示し、注意喚起	プレイヤーコメント

No.	課題区分	課題	原因	対策	抽出元
		項が挙げられた。		する。	

(機構対策本部)

No.	課題区分	課題	原因	対策	抽出元
1	FAX	FAX 送信した資料の細かい文字が読みづらい。FAX 中の写真が黒く塗りつぶされていた。	書画装置で表示した映像を PC でキャプチャし、画像を印刷、FAX 送信するため、送付する画像の画質が悪くなってしまう。	(確認)資料の送付方法を FAX からメールへ変更し、画質の向上を図る。	・パンチリスト : No. 6, 37, 53
2	情報共有	連携開始冒頭の IP 電話番号の確認において、電話番号を書画装置に映して説明できなかった。風向を手書きで示した際に、記号及び字が細く、色も判別しづらかった。	訓練冒頭に、発話者が電話番号を視覚的に示す認識が足りなかった。また、一時的に用いた蛍光ペンでの記載が識別しにくかった。	IP 電話番号が記載された用紙を用意し、訓練冒頭にそれを用いて説明する。また、説明時に用いるペンについては、蛍光ペン等の薄い色のは使わず、ネームペン等の記載が見やすいものを用いて説明する。	・パンチリスト : No. 8, 22

以上

事業者名：日本原子力研究開発機構 新型転換炉原型炉ふげん

規制庁記入

事業者記入

訓練日	事業所 プルダウン から選択	No.	誰に対する コメントか	コメント の種別	コメント 良かった点／改善すべき点などの 気づき、訓練を通じて確認したい 内容などを記載	場所 プルダウン から選択	割り 振り	事業者意見等	課題区分
10/17	ふげん	1	事業者の 対応	良かった点	現地検査官の座席は緊対所の奥にあるため、大型モニターが見にくい、聞き漏らした情報を事業者のリエゾンが確認してくれるため、正しい情報をクロノロにあげることができた。また、燃料破損の可能性についてその根拠の説明がなかった際に根拠を求めたところ、リエゾンは適切な回答をし、その内容を記録に残していた。	緊対所	ふげん	良好コメント	-
10/17	ふげん	4	事業者の 対応	改善すべき点	訓練開始時に検査官室には、館内放送が届かなかった。事業者が緊急時連絡に直接来てくれたので、情報を把握できないことはなかった。	その他	ふげん	状況 ①10時10分の訓練開始時には、訓練用の緊急地震速報の音声を流しましたが、訓練用の緊急地震速報の発信を館内放送設備ではなく、管理区域も含めてふげん全域に地震速報を周知する目的で、緊急地震速報を録音したレコーダーからページング設備のマイクを介して実施したため、音声が小さく聞きづらくなりました。また、要員招集、所内従業員及び外来者等への安全確保に関する館内放送の音声が、特に訓練開始直後には小さく聞きづらい場合があったことがわかりました。 ②地震発生から館内放送開始までの時間差が生じた原因は、自身の安全確保行動後に指揮命令系統に従い実施したためでした。 対策 ①今後は、訓練用地震速報の発信は、実際に緊急地震速報が発信された場合と同様に、館内放送設備から発信することとし、訓練用の緊急地震速報の音量を確認した上で実施することとします。 ②館内放送が、所内従業員及び外来者等へ確実に伝わるよう、日頃から放送担当者の発声に注意を払うとともに、放送設備の健全性、音響の状況を確認し、音量を調節いたします。	情報共有
10/17		5	事業者の 対応	良かった点	状況に応じて適時に情報提供いただけたと感じます。	ERC	本部	良好コメント	-
10/17		6	事業者の 対応	改善すべき点	書画で説明いただいた紙についてFAX送付を依頼しましたが、画面をキャプチャした(ような)紙をリエゾンからいただきました。タイムリーでよい反面、紙そのものよりは細かい字が読みづらいため、今後速報性と見やすさの両立に向け引き続き改善のご検討をお願いしたいと思います。	ERC	本部	速報性の担保のため、書画装置の映像をキャプチャし、FAXで送信しております。 【確認】ご指摘の視認性の向上に対して、FAXを用いずERCへのメールを送付して、書画に関する資料の共有を行ってもよろしいでしょうか。	FAX
10/17	リエゾン	7	事業者の 対応	確認事項	事業者として定めるリエゾンの役割として、①即応センターからの情報提供の補足説明②資料のコピー及び配布③即応センターの認識のずれ、説明が的を射ていない場合の助言④即応センターからの質問対応があげられているが、訓練内容がlightである面を考慮しても、②については淡々としていたが、明らかに発言の間違ひ訂正(ピンの径)、不適切な表現(計器故障により低下しない、ガスモニタの数値の上昇に係る説明)等々の訂正助言、リエゾン経由での報告、広報資料の内容確認はコントロールによる助言後にやっとアクション(結果は、意見を出した内容の修正には至らず)を見るに、ただ行って来いで任務の理解、役割分担など、示している任務が果たされたとは思えないが、認識やいかに。回答願う。	ERC	本部 /敦賀本部	プラント班へのリエゾン対応については、機構の発話者の誤った発話の訂正及び補足説明を積極的に行えませんでした。広報リエゾンの対応については、現地でのプレス文作成が想定より約20分遅れ、訓練中に確認を終えることができませんでした。今後はリエゾンの役割を担当者間で明確化し、能動的なリエゾン活動ができるよう改善を図ります。	リエゾン
10/17	機構本部	8	事業者の 対応	改善すべき点	書画を活用し、ERCに確認しつつ説明に努めていたのは確認した。ただ、開始冒頭での電話番号交換に活用されず、また、プラント状況の概要説明(燃料の状況、プラントリスク等)に活用する着意があってもよかったのでは。更に、一例として風向を示す際の表示は細く、色も識別しにくい印象。	ERC	本部	開始冒頭の電話番号交換については番号を書画装置で示しながら発話できるよう改善いたします。 また、プラント状況については地震発生前のふげんの運転状況を含め災害対策資料のプラントに係る図を用いて説明できておりましたので書画装置を活用する着意はありました。 一例で挙げさせていただいた風向を示した際は蛍光ペンを用いて記載をしたため見づらくなってしまいました。ネームペン等を用いて見やすい記載をいたします。	情報共有
10/17	ふげん	9	事業者の 対応	改善すべき点	○改善策の検証① 地震発生(訓練開始)時に事務本館1階の廊下にはいたが、館内放送も確認できず、緊対所に駆けつける人で訓練が開始されたことを確認した。全館放送にて訓練の開始を周知すべきであった。 課室には地震発生(訓練開始)等の放送が流れたようであるが、廊下(検査官室含む)等に放送が流れていなかった。これでは協力会社や外来者への注意喚起が不十分であったとした昨年度の改善がなされたとは思えない。 また、玄関前の人員点呼状況を確認したが、最初の放送が偏っていた(限定放送のため)か、当初、少数しか集合できておらず、10:24に再度館内放送(10:13の地震一訂正で10:10)があり、再集合が行われた。 ここで、社員の人員把握等は確認できたが、協力会社等の掌握において聞き取りでは35名であったが、人員確認表では152名の避難者となっていた。 なお、第1部訓練終了後、館内放送のテストを実施したようであるが、その際は検査官室は問題無く流れた。	緊対所	ふげん	緊急地震速報の音声及び館内放送の音声が小さかったこと並びに地震発生から館内放送までの時間差については、No4に記載した内容のとおりです。  人員点呼の状況の「35名」は、協力会社従業員の管理区域内作業者を模擬して報告した人数であり、実際の管理区域入域作業員は、解体作業等を継続しておりました。一方、人員確認表の「152名」は、当日のふげん内での各協力会社の総出勤者数であり、全員避難したことを模擬して人員確認表に記載しておりました。今後は、実際の避難者数を人員確認表に記載いたします。	情報共有
10/17	ふげん	10	事業者の 対応	良かった点	○改善策の検証② 緊対所に大型モニターを導入し、ホワイトボードも映し出せるよう設備改善がなされていたのは良好である。また、放管班も定型のフォーマットを作成し、手書きの線引きをすることなく数値を記入する体制に改善されていたのも良好であった。 欲を言えば、書画カメラの記入において、第1部訓練でカラー(赤ペン等)を使用して本部長等の強調・確認事項を補足したほうがよかった。(第2部訓練においては色付のペーパー等が提示されていた。)	緊対所	ふげん	良好コメント	-
10/17	ふげん	11	事業者の 対応	良かった点	FAXの送付時に確認用フォーマットを使用して記載項目等を点検するとともに、FAXの送信報告、着信確認を確行していたのは良好であり、今後も継続して頂きたい。	緊対所	ふげん	良好コメント	-

事業者名: 日本原子力研究開発機構 新型転換炉原型炉ふげん

訓練日	事業所 フルダウン から選 取	No.	誰に対する コメントか	コメント の種別	コメント		場所 フルダウン から選択	割り 振り	事業者意見等	課題区分
					良かった点/改善すべき点などの気づき、訓練を通じて確認したい内容などを 記載					
10/17	ふげん	12	事業者の 対応	改善す べき点	迅速を要する緊急時対応とPPの手続きは矛盾する。緊急時対応部門とPP部門が相互理解をはかり、合理的で双方が容認できる緊急時の特例を定めること、それを訓練で検証し、実効性を高めることが必要と思考する。 速やかなモニタリングの実施及び放射線防護と矛盾する次の行動があった。 1 防護区域の燃料貯蔵プールに入るために、装着した防護具を外さなければならなかった。 (1) 防爆検査のために手袋を外す。 (2) 警備員が顔を確認するため全面マスクを外す。 (3) 指認証のため手袋を外す。 2 これらの行為でかなりの時間をロスした。 3 警備員がプレイヤーでないため、汚染のおそれがある場所で防護具を装着しないで対応した。(緊急時は、警備員も必要な防護措置をして業務に当たるのでは？PP部門は訓練に参加しているのか?)		現場	ふげん	防災訓練での模擬対応に関するPP部署の確認、実際の緊急時のPP部署の確認につきましては、原子力規制庁PP部門とも相談をして、今後の方向性を検討し、その結果を訓練で実証し、実効性を高めてまいります。	-
10/17	ふげん	13	事業者の 対応	良かった点	室内空気のサンプリングを確認した。必要な防護具の選択、着脱、サンプリング作業はスムーズだった。 サンプリングしたろ紙及びカートリッジをGe半導体検出器で測定するところまで確認できた。		現場	ふげん	良好コメント	-
10/17	ふげん	14	事業者の 対応	良かった点	チームリーダーは、要点を押さえて状況説明し、具体的かつ要領よく指示を出していた。作業場所は騒音がうるさいこと、全面マスクを装着していることから言葉を聞き取りにくい状況にあったが、よく通る声で滑舌が良く聞き取りやすかった。		現場	ふげん	良好コメント	-
10/17	ふげん	15	事業者の 対応	その他	管理区域の入り口で訓練開始の放送を聞いたが、10時からかなり時間が経過したように感じた。(近くに時計がなかった。)放送は1回のみであった。 音声不明瞭で内容を聞き取れなかった。 プレイヤーに確認したところ、「現場で待機するよう指示があった。」とのこと。聞き慣れている人は理解できるかもしれないが、慣れない人には難しいと感じた。作業に集中していたら聞き逃す可能性もある。 事態の説明及び指示の放送は複数回繰り返しても良いのでは。緊急地震速報のように「緊急時を知らせる音声を流してから放送することも有効と思考する。 訓練の終了は、ピッチでリーダーに連絡があり、リーダーからプレイヤーに周知された。訓練開始の放送があったので訓練終了を知らせる放送があってもよいと感じた。		現場	ふげん	管理区域内の放送は、中央制御室からページングにより訓練開始時と訓練終了時の2回実施しております。 音声は、発話側の音量を上げ、明瞭に聞き取れるように心掛けるよう周知してまいります。また、訓練中は事態の説明及び指示の放送は複数回繰り返して放送することにいたします。	情報共有
10/17	ふげん	16	事業者の 対応	良かった点	・タイムリーに必要な情報提供があったと思います。 ・両本部間の連携も取れていたと思います。		ERC	本部	良好コメント	-
10/17	ふげん	17	事業者の 対応	良かった点	事故・プラントの状況、進展予測と事故収束対応戦略、戦略の司直状況:概ね良かった		ERC	本部	良好コメント	-
10/17	ふげん	18	事業者の 対応	良かった点	全体的に事象が単純でシビアな進展もなかったため、SEにも至らないものだったからか、必要な情報は適時に提供されていた		ERC	本部	良好コメント	-
10/17	ふげん	19	事業者の 対応	良かった点	リエゾンの活動:積極的な対応はなかった		ERC	本部	良好コメント	-
10/17	ふげん	20	事業者の 対応	その他	COPの活用:普通		ERC	本部	良好コメント	-
10/17	ふげん	21	事業者の 対応	良かった点	ERC備え付け資料の活用:概ね良かった		ERC	本部	良好コメント	-
10/17	ふげん	22	事業者の 対応	改善す べき点	使用済み燃料プールやダクト、緊対所の位置など、位置関係の全体像がつかめなかったため、配置図、平面図による説明を最初にして欲しい		ERC	本部	No.8コメント回答参照	情報共有
10/17	ふげん	23	事業者の 対応	その他	書画装置のスクリーンショットは、迅速性から極めて有効だと思う		ERC	本部	良好コメント	-
10/17	ふげん	24	事業者の 対応	その他	事故進展予測と戦略:シナリオなのかもですが、計器故障の疑いはもう少し早く出てよいと思う。		ERC	本部	引き続き、現地(ふげん)での状況判断能力及び、発話者の能力向上に努めます。	-
10/17	ふげん	25	事業者の 対応	良かった点	COPと備え付け資料の活用:使用していた		ERC	本部	良好コメント	-
10/17	ふげん	26	事業者の 対応	その他	シナリオ上の話かもしれないが、重要な計器の故障に約1.5時間を要している。周囲の線量状況等から、抗少し早目に判断されても良かったものと思う		ERC	ふげん	シナリオ上の話ではありますが、今後、シナリオ作成に際しましては、現実的な時間設定とするか、コントローラによる時間調整を行うよう、心掛けてまいります。	-
10/17	ふげん	27	事業者の 対応	その他	事業者の対応は概ね出来ていたものとする。		ERC	本部	良好コメント	-
10/17	ふげん	28	事業者の 対応	確認事項	聞き逃しただけかもしれないが、ダクトから大きな音が聞こえた件について、どうなったのか不明だった。		ERC	本部	当該事象について顛末を訓練内にERCへ説明できませんでしたが、EAL事象に進展する可能性のある事象について及びその事象の収束対応について、漏れなく情報共有できるよう対応能力の向上を図ります。	-
10/17	ふげん	29	事業者の 対応	良かった点	事故・プラントの状況:書画資料を用いて適時連絡していた。		ERC	本部	良好コメント	-
10/17	ふげん	30	事業者の 対応	良かった点	進展予測と戦略:実施状況を書画で提示していた		ERC	本部	良好コメント	-
10/17	ふげん	31	事業者の 対応	良かった点	戦略:実績、見込みの共有ができていた		ERC	本部	良好コメント	-
10/17	ふげん	32	事業者の 対応	改善す べき点	退場状況については、方針を提示してからすぐに作業が開始されていたけう散見されたため、対応方針をもう少し早く提示できると良い		ERC	本部	No.24コメント回答参照	-
10/17	ふげん	33	事業者の 対応	改善す べき点	モニタ情報は適時適切に共有されいたと思うが、落下した燃料の状況等に係る情報共有が少なかつた印象。 どう事象を終息させていくかの戦略があまり見えなかった。		ERC	本部	No.28コメント回答参照	-
10/17	ふげん	34	事業者の 対応	良かった点	敦賀本部との連携が改善されていた。		ERC	本部	良好コメント	-
10/17	ふげん	35	事業者の 対応	改善す べき点	FAX送信時に第1報~第4報には送信確認の電話があったが、「JAEA本部→ERC」とクレジットされた資料はFAX送信の際に確認の電話がなかったため、資料の位置づけが分からず混乱した。リエゾンが派遣されていればリエゾン配付にしても良いし、リエゾン派遣前にFAXするので通信確認をいただきたい。		ERC	本部	当該「JAEA本部→ERC」FAX送信時、既にリエゾンが活動を開始していたため、リエゾンに対してFAX着信確認の連絡をしました。リエゾンがERCへのFAX資料を確認しようとしたところ、ERCより資料はERC側で配る旨お話をあったため、本対応を中断しました。この時、リエゾンからERCへ着信確認を既に受けた旨、お伝えできませんでした。今後はFAX送信を行った場合は、通信確認ができるよう改善を図ります。	FAX
10/17	ふげん	36	事業者の 対応	確認事項	第2部訓練の25条報告の右上に「第5報 最終報」と記載があるが、政府の緊急事態宣言が解除されるまでは対応が続くので、この時点で最終報と記載するのは適切か?		ERC	ふげん	第2部訓練では一部関係自治体にFAXしており、訓練時の最終報として明記したものです。(訓練項目の通報連絡訓練においては、自治体にはFAX受信と着信確認をお願いしておりますが、自治体のご都合(要望)により、FAXの受信のみで着信確認をしない場合があります。このため、「最終報」と記載することにより訓練が終了する(した)ことをお伝える役割がありました。)実発災時は、その時点で「最終報」と記載されるものではないと改めて、認識いたします。	-

事業者名: 日本原子力研究開発機構 新型転換炉原型炉ふげん

訓練日	事業所 プルダウン から選択	No.	誰に対する コメントか	コメント の種別	コメント 良かった点/改善すべき点などの気づき、訓練を通じて確認したい内容などを 記載	場所 プルダウン から選択	割り 振り	事業者意見等	課題区分
10/17	ふげん	37	事業者の 対応	改善す べき点	第1部訓練のJAEA本部→ERCNo3報のFAX中、写真が黒く塗り つぶされていた。訓練報告会で当方から示した画像処理手法も 検討いただきたい。	ERC	本部	No.6コメント回答参照	-
10/17	ふげん	38	事業者の 対応	改善す べき点	警報に係る報告が当初遅れていた	ERC	本部	No.24コメント回答参照	-
10/17	ふげん	39	事業者の 対応	改善す べき点	対等の実施予定を積極的に説明してもよい	ERC	本部	No.24コメント回答参照	-
10/17	ふげん	40	事業者の 対応	確認事 項	最初の警報発報自国が不明	ERC	本部	No.24コメント回答参照	-
10/17	ふげん	41	事業者の 対応	改善す べき点	燃料仕様説明の間違いは反省すべき	ERC	敦賀 本部	敦賀対策本部のERC対応者(発話者)が、燃料ピンの寸法を伝える べきところを勘違いして、燃料体の寸法を伝えてしまいました。 ERC対応者が誤った内容を発話した場合は、他のERC対応者等 が漏れなく、速やかに訂正できるように改善いたします。	情報共有
10/17	ふげん	42	事業者の 対応	良かつ た点	事象・プラント状況:情報に不足等なかった	ERC	本部	良好コメント	-
10/17	ふげん	43	事業者の 対応	良かつ た点	進展予測と戦略:実施状況:情報提供は十分だった	ERC	本部	良好コメント	-
10/17	ふげん	44	事業者の 対応	改善す べき点	情報提供の整理(内容の確認)は必要。閉じ込めに関して必要 な整理は必要と考えます。	ERC	本部	No.28コメント回答参照	-
10/17	ふげん	45	事業者の 対応	良かつ た点	事象・プラント状況、進展予測と事故収束対応戦略、戦略の進 捗状況:情報提供ができていた	ERC	本部	良好コメント	-
10/17	ふげん	46	事業者の 対応	良かつ た点	リエゾンの活動、COPの活用、備え付け資料の活用:できていた	ERC	本部	良好コメント	-
10/17	ふげん	47	事業者の 対応	良かつ た点	災害対策資料の活用がよくできていた	ERC	本部	良好コメント	-
10/17	ふげん	48	事業者の 対応	良かつ た点	リエゾンの活動、COPの活用、備え付け資料の活用:できていた	ERC	本部	良好コメント	-
10/17	ふげん	49	事業者の 対応	改善す べき点	リエゾンの活動:途中から何の声かけもなくリエゾン資料の配付 がなくなった。	ERC	本部	No.7コメント回答参照	リエゾン
10/17	ふげん	50	事業者の 対応	確認事 項	事象の内容がうすいが、リエゾン資料が多く、表などは見えにく い	ERC	本部	No.7コメント回答参照	リエゾン
10/17	ふげん	52	事業者の 対応	良かつ た点	書画のプリントアウトしたものがすばやく配付されたので、良かつ た	ERC	本部	良好コメント	-
10/17	ふげん	53	事業者の 対応	改善す べき点	事業者資料について、上が切れていて、見えないものがあった。	ERC	本部	No.6コメント回答参照	FAX
10/17	ふげん	54	事業者の 対応	改善す べき点	リエゾン資料について、番号が同じものがありました。	ERC	本部	No.7コメント回答参照	リエゾン
10/17	ふげん	55	事業者の 対応	良かつ た点	敦賀本部との連携が改善されていた。	ERC	本部	良好コメント	-
10/17	ふげん	56	事業者の 対応	改善す べき点	FAX送信時に第1報～第4報には送信確認の電話があったが、 「JAEA本部→ERC」とクレジットされた資料はFAX送信の際に確 認の電話がなかったため、資料の位置づけが分からず混乱し た。リエゾンが派遣されていればリエゾン配付にしても良いし、リ エゾン派遣前にFAXするので通信確認をいただきたい。	ERC	本部	⇒No.35と同じ項目	
10/17	ふげん	57	事業者の 対応	確認事 項	第2部訓練の25条報告の右上に「第5報 最終報」と記載があ るが、政府の緊急事態宣言が解除されるまでは対応が続くの で、この時点で最終報と記載するのは適切か？	ERC	本部	⇒No.36と同じ項目	
10/17	ふげん	58	事業者の 対応	改善す べき点	第1部訓練のJAEA本部→ERCNo3報のFAX中、写真が黒く塗り つぶされていた。訓練報告会で当方から示した画像処理手法も 検討いただきたい。	ERC	本部	⇒No.37と同じ項目	